

青葉分校 中日教育賞受賞

～50年にわたる特別支援教育～

青葉通信

第10号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園



日進市立北小学校・日進中学校青葉分校が、中日新聞社が中部地区で教育に功績のあった個人・団体を顕彰する第四十二回中日教育賞を受賞、十月二十一日、名古屋市中区の中日パレスで表彰式が行われました。
青葉分校は昭和三十五年

四月、中日青葉学園(当時は虚弱児施設)開設と同時に学園敷地内に北小学校・日進中学校分校として設立、平成二十二年に開校五十年を迎えました。学園は児童養護施設へさらに情緒障害児短期治療施設を加えた複合施設に変わりましたが、分校で特別支援教育を受けた学園児童生徒は千五百十人を数え、児童生徒の教育・自立に大きな実績を

残しています。平成二十二年度は小学部教諭八人・児童二十五人、中学部教諭十三人・生徒二十六人、各部四クラス。虐待を受けたり養育されないことで人間形成が不十分だったり、自閉症や何らかの情緒障害を抱える子どもたちに対し、その子の状態に応じた個別対応と複数教諭によるチームティーチングで教育効果を上げています。

春のスポーツフェスティバル、冬の持久走大会などのスポーツ、種蒔きから餅つきまで一年を通じた米作



中日青葉学園 理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

残っています。

平成二十二年度は小学部

教諭八人・児童二十五人、

中学部教諭十三人・生徒二

十六人、各部四クラス。虐

待を受けたり養育され

ないことで人間

形成が不十分だっ

たり、自閉症や何

かの情緒障害を抱える

子どもたちに対し、その子

の状態に応じた個別対応と

複数教諭によるチーム

ティーチングで教育効果を

上げています。

春のスポーツフェスティ

バル、冬の持久走大会など

のスポーツ、種蒔き

から餅つき

まで一年を

通じた米作



高校進学に成果を出しています。



学習空白を個人に応じた学習指導で補う」などを行い、適切な進級、

「二人ひとりの障害、発達段階を全職員が的確に捉え、不登校により

生じた

学習空白を

個人に応じた

学習指導で

補う」など

を行い、適

切な進級、

目標達成に寄与してきまし

た。

現職教育研究として

二人ひとりの障害、発

達段階を全職員が的確

に捉え、不登校により

生じた



学習空白を個人に応じた学習指導で補う」などを行い、適切な進級、

目標達成に寄与してき

た。

現職教育研究として

二人ひとりの障害、発

達段階を全職員が的確

に捉え、不登校により

生じた



進路用パソコンを導入、小学部は児童が落ち着くための個室を作りました。

また、児童生徒が青葉学園を退所、家庭復帰する際には、原籍校にスムーズに戻れるように関係機関と連絡を密にしており、特別支援教育としての成果は大きい

です。

表彰式、昼食会に出

席した土田謙二日進

中学校校長は「子ども

たちの心の声を聞いて

指導に当たって

ます」とあ

全社協・全国児童養護施設協議会

倫理綱領

- 1 私たちは、子どもの利益を最優先した養育をおこないます
- 2 私たちは、子どもの理解と受容、信頼関係を大切にします
- 3 私たちは、子どもの自己決定と主体性の尊重につとめます
- 4 私たちは、子どもと家族との関係を大切にされた支援をおこないます
- 5 私たちは、子どものプライバシーの尊重と秘密を保持します
- 6 私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止につとめます
- 7 私たちは、最良の養育実践を行うために専門性の向上をはかります
- 8 私たちは、関係機関や地域と連携し、子どもを育みます
- 9 私たちは、地域福祉への積極的な参加と協働につとめます
- 10 私たちは、常に施設環境および運営の改善向上につとめます

2010年5月17日 制定

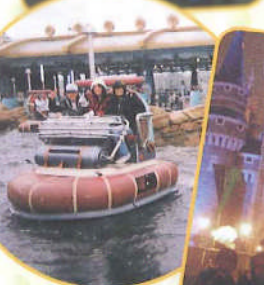
思い出いっぱいの学園旅行

「子」と頂いた寄付を使い、年度末に行っていた旅行(あおば館)食事会(わかば館)を統一して、二月中旬、①デイズ二リゾート旅行②ホテルと浜名湖パルパルへの旅行をあおば館、わかば館合同で学園旅行として出かけました。

デイズ二リゾート

二月十日夜、学園出発、十一日早朝リゾート着。デイズ二リゾート、デイズ二シーのいずれか自分が行きたいほうを選択、児童に職員かボランティアが付き添い数人ずつのグループに分かれて「さあー遊ぶぞー!」。

この日は東海から関東地方では雪が終日、降り続き、みんなは防寒衣にカッパや傘を差し、夜まで一日、元気にアトラクションや買い物を楽しみました。十一日夜、リゾート発、十二日早朝、学園に帰着。往復は寝台バスを利用しましたが、帰りは、遊び疲れてみんな爆睡でした。



浜名湖パルパル

十一日午前、学園出発、豊橋市内の水族館に立ち寄り、その後、浜名湖畔のホテルへ温泉で体を温め、夕食は食べ放題のバイキング。カニ、すし、デザートなどたくさん美味しかったです。十二日、浜名湖パルパルでメリーゴランド、ジェットコースターなどいっぱい遊んで、昼食を取り、帰園しました。幼児さんが多いため、余裕を持ったスケジュールを組み、早めの到着となりました。



わかば館精神科医

岡田 史・金城学院大学教授が二十三年一月からわかば館精神科医師として毎月二回、児童の精神健康管理、職員へのアドバイスに当たっています。岡田さんは三重県立小児心療センターにある園外での勤務経験に加え、臨床心理士の資格も有しわかば館に最適任。「病院と異なり、わかば館ではこたえで決めることができない面があるが、施設に合わせて役立てようという気持ちで話をしています。趣味は、プロレスなど格闘技観戦、好きな動物は犬。また、四月から、あおば館嘱託医の甘利先生が、月一回、わかば館児童の健康診断に当たっています。

長い間ありがとう～巣立ちの会～



卒 園生の門出を祝う「二十二年度巣立ちの会」が三月十九日、多目的ホールで開かれ、あおば館五人、わかば館三人を児童相談センター、青葉分校職員、在園生が送り出しました。

今年の対象者はあおば館が高校を卒業して就職する男子一人、女子二人、中退して自立する男子一人、中学卒業を機に家庭に帰る女子一人、わかば館は高校卒業して就職する男子一人、中学卒業して高校に家庭から通う男女各一人の



計八人。このうち自動車学校合宿中の高校生などを除く五人が参加しました。

初めに、学園長が一人ひとりに「送る言葉」を述べ、「学園で学んだことを胸に自分の道を二歩ずつ歩んでください」と励ました後、「学園生活の思い出とアルバム」として児童が一人ずつ舞台に立ち、スクリーンに映し出された写真をバックに思い出と抱負を話し、在園生が卒園生へのメッセージと歌を贈りました。

中日新聞社会事業団から恒例の記念品のほか、今年度は、三菱東京UFJ銀行名古屋営業本部の安田雄策部長ら五人が来賓として訪れ、「好きな物を選択できるカタログギフト」を手渡ししました。

会場は日本フラワーデザイナー協会愛知県支部(大協典子支部長)のみなさんが愛知県花き温室園芸組合連合会、名古屋花きから提供された花々を使ってこしらえたフラワーアレンジがたくさん配置され、きれいに飾られました。その後、関係者が会議室で軽い昼食を

第三者評価受賞

あおば館は福祉サービス第三者評価を二十二年度、前年に続いて受賞しました。その結果、「サービスの質」など八十六項目のうちAが七十九項目(前年比五増)、Bが六項目(同七減)、Cは二項目(同一減)でした。C評価は管理部門の外部監査がない項目。前年に比べBがAに上がったのが八項目、CがBになったのが一項目、AがBに下がったのが一項目。前回の受賞結果から、おむね改善が見られました。さらなる向上を目指して取り組んでいきます。



取りながら学園での思い出を語り合い、中でも小学校入直前に入所、高校を卒業して退園する男子二人については本人、職員ともに十二年にわたる学園生活に感慨深げでした。

新人です。よろしく (所属、名前、生まれ、一言、好きな動物)

あおば館児童指導員▽岩田麻里▽九月九日▽一宮市▽子どもと一緒に成長していきたいです。たくさん一緒に笑い、思い出たくさん作っていきたくです。

同▽篠原江里▽九月七日▽子どもたちと一緒に笑ったり泣いたりしながら成長していきたいと思えます。子どもたちが心をひらける大人になれるよう頑張りたいです。

同▽林美歩▽八月二十五日▽岐阜県▽まだまだ知らないところばかりですが、子どもの元気に負けないよう笑顔で過ごしていきたいと思えます。

同▽山本わか菜▽五月十四日▽名古屋▽元気がいっぱい毎日過ごしたいです。

わかば館同▽前坂美穂▽一月二十九日▽富山県▽大好きな中、青葉学園で過ごすことができうれしく思います。

事務▽伴野翔哉▽三月八日▽なんでも前向きにやっています。いつでもどこでも呼んで下さい!

二十二年度表彰

【あおば館】
▽佐藤路子主任指導員、愛知県施設の虐待防止マニュアル等検討会議委員として子どもの権利ノード改訂に尽力。
▽武智絵里児童指導員、性(生)教育の一環として、あいちCAPの暴力防止プログラムを導入、職員・子どもワークショップ実施を主導。
【わかば館】
▽石垣儀郎指導員、横井直子主任指導員、川上知幸児童指導員、大嶋隆志・岡部匡俊・荒木靖子・山本秋子心理士二十二年五月から二十三年三月まで十回にわたり「子育て支援相談セミナー」を初めて開催、地域福祉に貢献。

勤続表彰

【あおば館】
▽佐藤路子主任指導員、安藤美菜子主任指導員、五年
【わかば館】
▽十年、石垣儀郎指導員、河邊みづ子調理員、五年、山本秋子心理士

二十三年人事

▽異動 わかば館館長 近藤日出夫(指導療育部長)、指導療育部長兼あおば館指導員 寺井陽二(あおば館指導員)採用、わかば館非常勤医師 岡田和史(二月一日付け)退職、わかば館館長 武市幸子(十二月三十一日付け)採用、あおば館児童指導員 岩田麻里、篠原江里、林美歩、山本わか菜、わかば館同 前坂美穂、事務員兼生活指導員 伴野翔哉、わかば館非常勤医師 甘利淳▽異動、わかば館指導員 高崎孝一(あおば館指導員)、あおば館看護士 増川順子(わかば館看護士)昇進、事務係長 武弘和通(主任事務員)、給食係長 水野智恵(あおば館栄養士)、わかば館主任心理士 大嶋隆志(わかば館心理士)▽異動、昇進、あおば館主任指導員 川上知幸(わかば館児童指導員)▽四月一日付け▽退職、あおば館児童指導員 武智絵里、中田真実、わかば館保育士 山元優佳、調理員 西尾千春(三月三十一日付け)

月	日	内容
10月	2日	北小学校運動会
	15日	浜松市中区民生児童委員が学園視察
	21日	日進中学校北小学校青葉分校が中日教育賞受賞
	23日	あおば館三菱UFJ信託銀行フレンドサークル招待
11月	5日	日進中学校文化祭
	13日	台風で順延した青葉まつりを開く
	14日	日進グリーンハイソ自治会との合同地域防災訓練
	15日	竹の子会50周年感謝の日、和太鼓・バンド演奏と立食パーティ
	27日	県児童福祉施設長会主催音楽の集い(常滑市)中日森友隊椎木林の枝打ち、下草刈り
12月	1日	お菓子の家・フレベールがケーキ作り
	5日	日本フラワーデザイン協会支部のクリスマス教室
	18日	CBCチャリティ募金寄託贈呈式(地デジテレビ購入)
	20日	和合迎賓館あおば館招待
	22日	クリスマス会で愛知中央ライオンズクラブからプレゼント
	23日	名古屋スポーツセンターのスケート招待
	27日	フットサル大会にあおば館2チーム、わかば館1チーム参加
1月	30日	もちつき大会
	1日	猿投神社へ初詣
	6日	児童全体会で特別お年玉を渡す。愛知警察署から感謝状受領
	10日	ドラゴンズ大島海洋外野手が学園訪問
	14日	白山スキー村に中学生11人参加(16日まで)
	30日	あおば館サッカー交流会・ニューイヤーズカップで優勝
2月	5日	施設長会の親善マラソン大会
	10日	学園旅行でデイズ二リゾートに90人
	11日	浜名湖パルパルに60人
	12日	名北地区教育相談部会がわかば館見学
	16日	中京テレビがニュース特集で学園を取り上げる
3月	3日	夜間避難訓練
	6日	わかば館卒業を祝う会
	8日	日進中学校卒業式(11人)
	18日	北小学校卒業式(9人)
	19日	ベタニヤ幼稚園卒園式(3人)・巣立ちの会、あおば館卒園の会
	24日	学園退職職員離任式

多額寄付

名古屋近郊の二人の方から五百万円と三百萬円の寄付を頂きました。学園旅行、和太鼓二台、児童ホームのソファ、毛布、こた

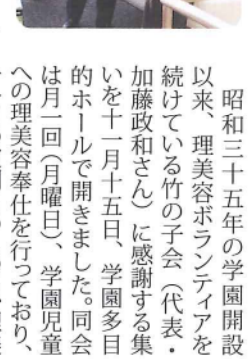
半年の出来事



タイガーマスク 学園に参上

二十二年末から全国で児童養護施設などへ寄付する「タイガーマスク現象」。

青葉学園にも一月十二日午後、タイガーマスクを被った男性が訪れ、加湿器八台とお年玉五万円を職員に手渡し、無言で立ち去っていきました。中日新聞での報道をきっかけにテレビ局二社の取材が入り、施設の様子を含めたニュースで取り上げられ、さらに二月中旬には、中京テレビが学園旅行を含めた子どもたちの生活ぶりを紹介。その後、例年の寄贈以外に学用品、図書券、現金のプレゼントがあり皆さんの温かい応援に感謝しています。



竹の子会 感謝の日

昭和三十五年の学園開設以来、理美容ボランティアを続けている竹の子会(代表・加藤政和さん)に感謝する集いを十一月十五日、学園多目的ホールで開きました。同会は月一回(月曜日)、学園児童への理美容奉仕を行っており、十一月の定例日のこの日、理美容終了後、長年功労者六人に感謝状を贈り、和太鼓クラブが感謝の気持ちを含めて演奏。加藤さん紹介のユーティピアマジッククラブ・鳥居克次会長が手品を披露。子どもたちは立食パーティを楽しみながら加藤さんらをねぎらいました。

大島選手訪問

六人は次の皆さん(敬称略)。加藤政和、佐藤由美子、渡邊美代子、後藤輝昌、加藤美智子、岡本栄子

中日ドラゴンズ外野手大島洋平選手が一月十日、学園を訪れ、児童約四十人と理美容奉仕団体竹の子会のメンバーと交流しました。大島選手から「小さい時から野球ばかりしていた」「練習を重ねることが大事」などと話があり、握手や写真を撮ったりしました。学園側からは「今シーズンにはリーグ優勝、日本シリーズ優勝を果たしてほしい」とお願いしました。



東海テレビから十二月十日、同社制作の名古屋弁かるたを頂きました。多目的ホールに小学生らが集まり、蟹江篤子アナウンサーの読み上げで、一足早いかるた取りを楽しみました。かるたはその後、各ホームで遊びの時間に使っています。

豊明老人保健施設 和太鼓訪問

学園の子どもたちが一月二十二日、豊明老人保健施設(豊明市沓掛町)を訪問、お年寄りと交流しました。児童福祉施設は多くの人たちに支えられており、その感謝の意を表す方法の一つとして今回の企画となりました。



安全対策

新たな安全対策として①わかば館屋上への立ち入りを防ぐネットなど追加設置②分校・わかば館裏への立ち入り防止のフェンスとチェーン、路面カラー表示を新設③遊んで良い所、遊んではいけない所などをカラーで明示する学園安全マップ作成・配置④グラウンド横のバスケットコートに衝撃緩和クッション設置を取りました。費用は、学園への寄付を充てました。

桜を迎えられ

フレベール祭りの収益金を毎年、寄付くださるお菓子の家・フレベールから三月末、明るく楽しい学園を象徴する絵画を頂きました。豊明市の画家が描いた水彩画(縦三十七cm、横五十六cm)。学園正面を背景にピンクの花が満開の桜の下に見上げた風景で子どもたちの希望に満ちた気持ちと温かく迎える学園の雰囲気伝わってきます。絵の裏には「笑顔が一番」など同店で働く皆さんの寄せ書きがあり、子どもたちを励ましています。



ありがとうございました

銀行、名古屋スポーツセンター、イトビー、さんわコーポレーション、愛知ミタ力運輸、都筑、白電神社、三菱商事中部支社、トヨタ自動車、スターバックスコーヒーミュージアム日進竹の山店、愛知県Aハイジャズメント施設、営業者協会、お菓子の家フレベール、近藤産興、日進市更生保護女性会、名古屋東区更生保護女性会、リソト、全国青年司法書士協議会、マリオン日進店、紀の国屋、日本フラワーデザイン協会愛知県支部、愛知県花き温室園芸組合連合会、名古屋ロジステック、興亜商事、地方紙正月連合、劇団うりんこ、日産労連、ヤエツ

クス、松原愛、佐橋晋、峰正和、ちゅうでん教育振興財団、高木秀隆、ちゅう、松本慶洋、ウィーアップコーポレーション、ニトリ、柴田紀香、下畑良和、三菱東京UFJ銀行、Lulu、香久山、ココロラセントラルジヤパー、ムーンバット、菅沼三佐子、伊達直人、ルパン三世、キリンビバレッジ中部圏地区本部、名古屋グランパス、イト、柴田泰孝、全国シャンメリア協同組合、新生紙バルブ商事名古屋支店、東海テレビ、宇都宮永吉、日本缶詰協会、僕のAバン日進店、慈眼寺、カルビー

(以上物品、招待)(順不同、敬称略)

平成23年度 中日青葉学園予算 (単位:円)

収入		支出	
1. 掛置費	181,244,000	1. 人件費	136,481,000
2. 補助金	17,620,000	2. 事務費	19,262,000
3. 寄付金	4,900,000	3. 事業費	55,781,000
4. 雑収入	4,900,000	4. 固定資産取得	6,150,000
5. 利息配当	10,000	5. 退職共済掛金	0
6. 繰入金	10,000,000	6. 修繕引当金	1,000,000
7. 助成金等	0	7. 次期繰越金	0
合計	218,674,000	合計	218,674,000

収入		支出	
1. 掛置費	128,902,000	1. 人件費	121,260,000
2. 補助金	4,000,000	2. 事務費	10,930,000
3. 寄付金	1,700,000	3. 事業費	23,722,000
4. 雑収入	1,300,000	4. 固定資産取得	0
5. 利息配当	10,000	5. 退職共済掛金	0
6. 繰入金	20,000,000	6. 修繕引当金	0
7. 助成金等	0	7. 次期繰越金	0
合計	155,912,000	合計	155,912,000

わが校編集後記

今年一月から、学園生え抜きの近藤さんが館長を務めることとなりました。学園卒業生であり、大学で福祉を学び、職員として四十一年のキャリアを持つ大ベテラン学園が複合施設を目指したときの立役者でもあり、新たなスタートを見守っていただければ幸いです。(M・M)

卒園児童進学支援

中日新聞社会事業団は学園から大学または専門学校の進学を応援するため、卒園児童進学支援基金を新設しました。学園からの大学進学者はこれまでごくわずか。関東地方では施設からの進学者率は十数%といわれ、学園として援助できる仕組みを作りました。手始めに二十二年にいただいた二件(各百万円)の寄付金を基金に積み、来年四月から対象者があれば役立てます。

社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話052(221)0580
ファクス052(221)0839

中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市若崎町竹ノ山149-164
児童養護施設「わかば館」
電話0561(72)0134
ファクス0561(74)2315
児童心理療育施設「わかば館」
電話0561(74)7752
ファクス0561(72)7557